

心からのご寄付を ありがとうございました

8月24日～9月20日

渡辺塗装(株)	現金	300,000円
田中幸一	現金	1,000円
村上順子	現金	3,240円
東京マリンロータークラブ	現金	1,000,000円
東京荒川西ライオンズクラブ	現金	1,000,000円
福井大学付属中学校ボランティア実行委員会	現金	32,138円
村岡理奈	現金	2,800円
鈴木秀三	現金	50,000円
ネモトサチコ	現金	5,000円
春秋書店	現金	21,801円
なかよし会	現金	3,888円
庭野光世	現金	10,000円
孕石弘	現金	7,429円
(社)青森県社会福祉起用協会	現金	14,612円
●佐藤きち子患者支援基金	現金	10,000円
切明隆	現金	10,000円
相河了秀・友梨	現金	10,000円
北海道骨髄バンク推進協会	現金	1,512円
北海道骨髄バンク推進協会	現金	27,088円
●あやちゃん基金	現金	5,000円
下村正信	現金	500,000円
●白血病患者支援基金	現金	500,000円
橋文子	現金	(敬称略)

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
全国骨髄バンク推進連絡協議会



厚生省臓器移植対策室朝浦室長、日本赤十字社血液事業部大給次長より、キャラバンゴール成功のお祝辞をいただき、骨髄移植推進財団の植岡事務局長からは、今回のキャラバンに連動して行われた集団ドナー登録の成

果についても報告がありました。集団登録は延べ35回で、1600人を超え、これにより統計的には新たに30人もの患者さんにチャンスを与えることができると試算されています。

全国キャラバンの経過報告として5カ所の団体から概要を説明しながらの報告がありました。このコーナーでは、ビデオ映像を交えての説明で各地域の特色がよく伝わったようです。そして、キャラバンカーが各地で集めた千羽鶴は真言宗醍醐派総務部長田和尚様にお納めすることができ無事に供養される運びとなりました。

このゴールイベントには、ドナー、レシピエントの方々に多数登場していただきました。骨髄移植を受けられてから子宝に恵まれたハッピーなレシピエントとして小野さん、吉田さん、羽賀さんの3人にそれぞれお子さま連れで登壇いただきました。また、骨髄バンクからのレシピエント同士で只今ご結婚中のカップル、山崎さんと福嶋さんのお幸せそうな笑顔は印象的でした。

ドナー体験者としてマラソンランナーの深尾真美さんの力強い講演と、協議会運営委員の中でのドナー体験者の笠原さん、高橋さん、山村さんの体験談、2年前に直面できたレシピエントの橋本さんとドナーの田中さんの再会。そして、

ドナーの東京でドナー号とレシピエント号が巡り会ったこと、いくつか骨髄提供者と患者さんが巡り会う感動も味わいたいのものです。(山本順子)

9月19日(土) 東京都・早稲田大学の大隈講堂にて「いのちのバトンリレー」全国キャラバンVゴール」全国キャラバンVゴールが開催されました。2カ月前の7月18日に釧路と那覇を出発した2台のキャラバンカーが対面するまでの走行距離、レシピエント号が8962km、ドナー号が9583kmの計1万8445kmにもなりました。

このゴールイベントには、ドナー、レシピエントの方々に多数登場していただきました。骨髄移植を受けられてから子宝に恵まれたハッピーなレシピエントとして小野さん、吉田さん、羽賀さんの3人にそれぞれお子さま連れで登壇いただきました。また、骨髄バンクからのレシピエント同士で只今ご結婚中のカップル、山崎さんと福嶋さんのお幸せそうな笑顔は印象的でした。

ドナー体験者としてマラソンランナーの深尾真美さんの力強い講演と、協議会運営委員の中でのドナー体験者の笠原さん、高橋さん、山村さんの体験談、2年前に直面できたレシピエントの橋本さんとドナーの田中さんの再会。そして、

ドナーの東京でドナー号とレシピエント号が巡り会ったこと、いくつか骨髄提供者と患者さんが巡り会う感動も味わいたいのものです。(山本順子)

大隈講堂入り口付近にはキャラバン走行経路を記した巨大な日本地図、各地での参加者の寄せ書き、ホームページでのキャラバンカー実況報告が楽しく掲示されていました。

なお、イベントとその後に行われたレセプションには東ちづるさんも参加し、各地ボランティアとの交流を深めていきました。

全国キャラバンの企画が出たのは実に9年前でありました。当時は規模的に実現は不可能でしたが、今回の全国キャラバンにかかわったボランティアは延べ2000名。多くの人に支えられながら実現し、真夏の日本列島を走り抜けた全国キャラバンは、無事に感動のフィナーレを迎えることができました。

さて、ゴールの東京でドナー号とレシピエント号が巡り会ったこと、いくつか骨髄提供者と患者さんが巡り会う感動も味わいたいのものです。(山本順子)

全国協議会 ニュース

発行所
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者
渡辺孝一
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655

●厚生省・日赤本社・財団を訪問
全国キャラバン最終地東京において、キャラバンカー・ドナー号は16日に厚生省、日本赤十字社本社を訪れ、陽副副会長がアピール文を提出しました。さらに翌17日にはドナー号とレシピエント号の2台がそろって財団を訪問し、野村運営委員長がアピール文を高久史磨副理事長に手渡しました。

3年間の「白血病フリーダイヤル」を通して、各相談員が感じてきたことの一つに、患者さんご家族に対して、どのようにして「貴方を支えよう」としている仲間がいるということを感じて、ある日突然に患者さんになってしまった病初期の患者さんは、パニックと不安に日々苛まれ、やがて孤立感と焦燥感に陥ってしまいがちです。手を取り合って励まし合う闘病支援があれば、無言で折りつづける支援もあります。私たちが、電話の向うの貴方に伝えたいことを、この冊子に盛り込んだつもりです。

冊子を手にとられた方が孤独から解放され、希望をもって闘病に向かわれることを願いつつ、更なる傾聴の日々を重ねたいと思っております。

お申込みは、全国協議会事務局に電子メールまたはファクスにてお願いします。(村上順子)

●「白血病と言われたら」患者家族向け冊子を発行
昨年度来の念願でありました患者さん向けの冊子「白血病と言われたら」病初期の患者さん・家族に向けてが8月末によりやく完成しました。



●NPO法人化に向け設立総会
全国協議会は、特別非営利活動(NPO)法人化に向け、9月19日、東京・四谷地域センターで設立総会を開きました。

総会には、加盟44団体中31団体が出席し(委任状提出12団体)、法人化に必要な全ての議案を承認しました。今後、11月末までに東京都に法人化の申請を行い、来年3月頃から正式スタートすることになります。

●「白血病と言われたら」患者家族向け冊子を発行
昨年度来の念願でありました患者さん向けの冊子「白血病と言われたら」病初期の患者さん・家族に向けてが8月末によりやく完成しました。

●NPO法人化に向け設立総会
全国協議会は、特別非営利活動(NPO)法人化に向け、9月19日、東京・四谷地域センターで設立総会を開きました。

総会には、加盟44団体中31団体が出席し(委任状提出12団体)、法人化に必要な全ての議案を承認しました。今後、11月末までに東京都に法人化の申請を行い、来年3月頃から正式スタートすることになります。

リゲインがあるじゃないか。
黄色と黒のチカラ。
肉体疲労時の栄養補給、滋養強壮に。
J-リゲイン
●大人1日1回1本、J-リゲイン 100ml・194円
価格はメーカー希望小売価格(本体価格)

健康?!
ワンランク上の昆布パワーが
あなただけの健康をバックアップ
健康志向のあなたに、贈る海の贈り物
バイオ飲料
バイオU
1ケース(50mlx30本)単位で発売しております。
※特許出願中

本気で考えるなら
この一本。

0120-810-771
TEL:077-543-7208

冊子を手にとられた方が孤独から解放され、希望をもって闘病に向かわれることを願いつつ、更なる傾聴の日々を重ねたいと思っております。

お申込みは、全国協議会事務局に電子メールまたはファクスにてお願いします。(村上順子)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

●全国キャラバン連動の「ドナー集団登録会」で、1682人が登録!
全国キャラバンが開始された7月18日から9月15日までの約2カ月間の「ドナー集団登録会」は、38都市で45回開催され、ドナー登録者数の合計は2203人でした。このうち、全国キャラバンに連動したドナー集団登録会は、28都市で35回開催され、1682人ものドナー登録者数となりました。

この2カ月のドナー登録者全体数に占める集団登録会での登録者数は、約4割を占めており集団登録会の有効性が明確になりつつあります。今回のキャラバン連動集団登録会では、①県庁や市役所職員を主な対象としたもの、②企業の工場で行われた職域登録会型のもの、③青年会議所メンバーを主な対象としたもの、一などが12回開催され、新しい発展への芽生えが数多く含まれています。

●厚生省の来年度概算要求で「骨髄バンク事業への国庫補助金」が倍増へ!
8月末、平成12年度(2000年度)の骨髄バンク事業への政府(厚生省)の補助金(概算要求)が明らかに
なりました。内容は、当財団への補助金が平成11年度予算額1億4485万円から2億9830万円へ106%の増加。日本赤十字社への補助金も同じく3億7592万円から6億4892万円へと73%の増加となっています。当財団への増額内容は、主にコーディネートの充実と迅速化によって、さらに移植例数を伸ばし患者さんを救命する体制を整えるためのものです。日赤への増額内容は、ドナー登録者数の大幅増加を見込んだものです。こうした概算要求の内容は、当財団が目指す方向(移植例数800例の早期達成、コーディネート期間の半減化、ドナー登録者数30万人の早期達成)が、厚生省の強い理解を得たものと言えます。なお、当財団としては、骨髄バンクの運営費への公的補助がさらに充実されるとともに、医療保険適用により患者負担金が廃止(大幅削減)されることを願っています。正式な政府予算案は12月となりますが、骨髄バンクへの補助金の大幅増額が期待されます。

●国際協力事業の状況(97年4月～99年8月)・HLA照合サービス状況
日本→米国 予備検索357件(適合229件)、正式登録210件、移植累計49件(8月1件)
米国→日本 予備照会856件(適合25件)、正式登録42件、骨髄提供の実績なし
日本→台湾 予備検索209件(適合22件)、正式登録73件、移植累計4件(8月なし)
台湾→日本 予備照会1件(適合0件)、正式登録1件、骨髄提供の実績なし
日本→韓国 正式登録30件(適合4件)、移植0件
韓国→日本 正式登録5件(適合3件)、提供累計9件(8月2件)
その他の国→日本 正式登録56件、提供累計4件(累計香港へ3件・英国1件)

●10月からAC新キャンペーンが開始されます。「もえちゃん」母子が再登場です。
10月から、公共広告機構(AC)の新キャンペーンが開始されます。テレビCMには、1昨年のACキャンペーンCMで、大きな共感と感動を呼んだ「もえちゃん」とお母さんが再登場します。移植を終えて元気になっ

た「もえちゃんのありがとう」の言葉が印象的で、ナレーションは前回同様、女優の吉永小百合さんです。AC新キャンペーンでドナー登録が大幅に増えることが期待されます。

●財団事務局員を募集しています。「登録ボランティア」も募集中です。ご応募を!
コーディネーター業務を中心として、当財団本部事務局員と関東地区事務局員を若干名募集しています。なお、非常勤職員としての募集です。登録ボランティアも募集しています。お問い合わせは財団事務局 FAX03-3355-5090、Eメールtoroku-volun@jmdp.or.jpまでお願いします

●日本骨髄バンクの現状(1999年8月末現在)

	8月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,134	121,399	137,908
患者登録者数	130	1,705	8,198
骨髄移植例数	43	-	2,183

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。

ドキュメンタリーは最優秀賞

4月から取材を開始した遠藤允さん原作のドキュメンタリー「21歳の別離」が遅ればせながらこの夏に完成を迎え、クラブのコンクールでも最優秀賞をいただくことができました。しかし賞を獲得したことに以上、40分におよぶこの作品を、「とにかく最後までやり遂げたんだ」という充実感と、この作品を、どうか一人でも多くの方に見ていただきたいという気持ちでいっぱいです。



沖縄大会のあと、万座ビーチで大谷貴子さんを取材する砂田麻美さんら慶応大学生

全国キャラバン各地報告



群馬

どこでも協力的返事が
8月19日の12時半に埼玉より引き継ぎ、19、20日の2日間に渡って、県下の11市と県庁、県議会、地元マスコミ、血液センターを訪問し、骨髓バンクへの普及啓発活動を行いました。この活動には、平日にも関わらず延べ16名が参加しました。訪問先では、どこでも我々のアピールに賛同し、協力を頂くことを約束してく



前橋赤十字病院前で

新潟

熟年パワー発揮!

ドナー号は8月21日、群馬県から新潟県に入り、十日町JCのメンバーが引き継ぎました。ドナー号と伴走車、それに5台のバイクは六日町インターを出発。途中2カ所所でチラシ配りをし、新潟市へ。

22日には集団ドナー登録の会場、黒埼町のふるさと村で大勢のボランティアと一緒に登録を呼びかけ、県北の村上市に向かいまし



道中折風雨に見舞われ大変だったようです。

集団ドナー登録は予約が14人とあまりに少なく心配しましたが、ボランティアの懸命な呼びかけが実り、結果は95人と満足できました。

後半の2日間は村上から上越まで県内を縦走り、13の行政にアピール文を手渡すことができました。後半のキャラバン隊は平均年齢60歳(?)の熟年パワーに支えられました。とりわけ超熟年パワーのビデオ係・照田さんが光りました。

富山県からはたぐさんのトンネルを越えてドナー号を引き取りに来てくださった品川さんたちの親切に心から感謝いたします。

福井

盛りだくさんのキャラバン

8月29日、キャラバンカー・ドナー号を石川・はとの会よりバトンタッチしました。引継地点ではさっそくFM局のインタビュアーを受けました。30日には福井市内の企業を訪問し、アピール文を手渡しました。ボランティア休暇の導入、職域登録のお願い、署名の協力依頼なども行いました。

31日には、副知事、県会副議長、福井副市長、データセンター長にアピール文を手渡し、特に翌日から始まる秋の一斉登録まつりに向けて、ボランティアとの連携協力を要請しました。そして、骨髓バンク認定病院小児科の患児たちに、サンリオグッズをプレゼントしました。9月1日は県庁にて一斉登録。県職員中心に45名(45カ月分)もの登録を受け付け、一方、キャラバンカーは鯖江・武

島根

本邦初、野外ナイター登録



生方面の企業訪問。ショッピングセンターでPRを行いました。2日、ドナー号は横南(県南部)から京都へと引き継がれました。(池田)

島根では8月10日から12日に県内各地をキャラバンし、12日には出雲市内で夕方5時からの「おろち祭り前夜祭」で、メインイベントを行いました。

祭りに訪れる人々にチラシを配り、署名を呼びかけ、ドナー登録も実施いたしました。血液センターから担当者と看護婦2名、また調整医師にもおいで頂き登録受付をしました。

午後9時のお祭り終了までの間、10名のドナー登録がありました。偶然島根を旅行していた埼玉の学生さんは「いつもなかなか時間がとれなくて」といつつの登録。緑結びの神様に感謝いたします。

また、キャラバン期間中は外遊中で不在だった県知事には、24日に県庁でアピール文を手渡ししました。知事からは「要望達成には県としても支援いたします」とご理解を頂きました。

愛知

海部会長も参加

愛知は、CBCラジオの番組の中で、日頃より骨髓バンクの普及

啓発にご協力いただいている、パソナリーソフトのつぽいノリオさんへ感謝状を手渡すというイベントでキャラバンがスタートしました。



レシエント号2日目は海部会長や石見さんにも参加していただき、アピール文を多くの首長に手渡したのをはじめ、名古屋三越屋ヶ丘店での「あやちゃんの贈り物展」、名古屋第一赤十字病院での「ふれあいコンサート」、そして、新城市でのキャラバンカー歓迎ミニコンサート、半田保健所での一斉登録と多くのイベントを実施しました。結果的に全てのイベントが盛況に開催されとても良かったと思います。特に新城市でのミニコンサートでは、新城市等学校と新城中学校の合同演奏のあと、現患者さんや石見さんの体験談は、会場の中すべてに人に熱い感動を呼びました。(中島義則)

静岡

14台のハーレー隊に先導されて

9月9日、愛知県から受け継がれたキャラバンカーは、浜松で市長訪問、街宣を皮切りに静岡県内4日間の活動を開始しました。9月10日は静岡県庁、市役所等を



このキャラバンがドナー登録30万人への足がかりになったであろうことを確信いたしました。(北川)

東京

ドナー集団登録で1日に671人が登録!



大量ドナー登録でHLA検査に大わらわの中央データセンター

2台のキャラバンカーが東京入りした9月15日(敬老の日)東京都内5カ所において1日で1000人のドナー登録を目指す「休日ドナー集団登録会」を開催しました。キャラバンカーは各会場をまわり、当日のドナー登録を呼びかけました。

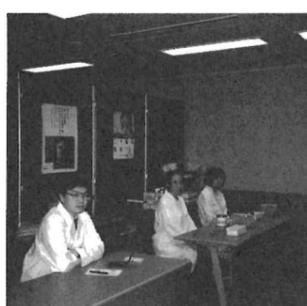
その結果としてのドナー登録者数は合計671人(新宿124人、池袋178人、錦糸町157人、下北沢98人、町田114人)と、これまでの集団登録会の記録(昨

各地のり各地より

年12月の東京八王子・1777人を大幅に書き換えました。当日は、スタッフ50人に加えボランティア約200人、合計250人が運営に当たりました。今回の登録は、東京都が特別な理解のもとに主催者として、5会場のうち4会場で採血を担当しました。日本赤十字血液センターは1会場の採血を受け持つと同時に、最大1000人分までのHLA検査体制を準備しました。

苦小牧 1500名が保険適用署名に

茨城 JIC連動 つくばで一斉登録



9月5日茨城青年会議所プロック協議会において、一斉登録が行なわれました。

残暑厳しい9月5日(日)、苦小牧若草町の中央公園で、苦小牧市消費者協会主催のフリーマーケットが入場者数約2万人という大勢の人でにぎわう中でおこなわれ、主催側のご理解、ご協力を頂き、その会場で広報活動と医療保険適用署名活動を行いました。当日は7名の役員と、趣旨に賛同する6名の高校生ボランティアが、汗を流しながら広報活動を行い、この意志が通じたのか約1500名の方の署名を頂くことができました。その他4名のドナー登録希望者がおられて、やって良かったという充実感を味わえたと共に骨髓バンクに対する理解度はまだまだ浅く、色々な機会を通じて広報活動をし、一人でも多くの方に理解していただかねばと感じた一日でした。(太田)



JIC会員の登録も数名いらっしゃいましたが、登録者のほぼ8割が一般来場者です。前日のお祭りにチラシ配りをした効果が出たようです。昨年の茨城キリスト教大学での一斉登録者数と比べると倍増しています(今回の登録者数は、1カ月の県全体の登録者数に匹敵)。茨城県としては上出来の部類に入るのでないでしょうか? (山崎)